英文解釈 L01 第 8 講 並列のまとまりと共通部分を読む

学習目標

- and・but・or が結ぶ語・句・節の範囲を、文中の働きから判断できる。
- 並列された 2 つのまとまりと、両方に共通する主語・述語・修飾関係を対応させられる。
- 追加・対比・選択の意味を保ち、英文全体を自然な日本語に訳せる。

共通凡例

S＝主語、V＝述語の中心、O＝目的語、C＝補語、M＝修飾語句。phrase／clause は句・節などの構造単位を示すラベルであり、S・V・O・C・M の役割表示や品詞名とは区別する。接続詞は並列の境界を示す語である。

〈〉は名詞の働きをするまとまり、〔〕は形容詞の働きをするまとまり、( )は副詞の働きをするまとまりを表す。V の下線は原文中の述語動詞の範囲を示す。

並列 O①・②は同じ述語に対応する並列要素であり、別々の目的語を取る SVOO を意味しない。共通 S・V・M は、原文に実際に書かれた一つの要素が両方に関係することを示す。

修飾関係の矢印を表示する場合は、実際の修飾先または C と O の対応だけを表す。並列の接続そのものを修飾・因果関係とみなしたり、原文にない省略語の存在を示したりするものではない。

接続詞が結ぶ語と句の範囲

解説

英文に and・but・or が現れたとき、接続詞の直前と直後の単語だけを結んで読んでいないだろうか。これらは語だけでなく、複数の語からなる句や、主語と述語を持つ節も結ぶ。大切なのは、接続詞を見つけることよりも、**何と何が並列されているのかを見極めること**だ。

まず、接続詞の前後にある語句が、文の中でどのような働きをしているかを確かめる。主語（S）や目的語（O）などの役割、名詞に付く修飾語の範囲、動詞との関係を手掛かりに、対応するまとまりの端まで原文をたどる。語句の長さや形が似ているというだけでは、並列の範囲は決まらない。

次の英文を見てみよう。

語注：flashlight「懐中電灯」／shelter「避難所」

〈The children〉 carried blankets and flashlights (into 〈the shelter〉) (before 〈the storm〉).
S V O 接続詞 and O M M

S “The children” / 共通主語 / The children が carried の主語となる。
V “carried” / 共通動詞 / carried は blankets と flashlights の両方を運ぶことを表す。
O “blankets” / 並列 O① / blankets は運ばれたものの一つ。二重目的語構文の第一目的語ではない。
phrase “and” / 接続詞 and / and は blankets と flashlights を並列する。and 自体は句ではなく接続詞である。
O “flashlights” / 並列 O② / flashlights は運ばれたもう一つのもの。二つの O 表示は一つの動詞に対応する並列目的語の内部単位を示す。
M “into the shelter” / 共通 M・移動先 / into the shelter は運ぶ方向・移動先を表し、毛布と懐中電灯の両方に関係する。
M “before the storm” / 共通 M・時間 / before the storm は運ぶ行為の時間を示し、二つの運搬対象に共通する。

意味：子どもたちは嵐の前に、毛布と懐中電灯を避難所へ運んだ。

©ミライコーチング

文の中心は The children carried …「子どもたちは運んだ」である。carried の目的語として、blankets「毛布」と flashlights「懐中電灯」が and で結ばれている。どちらも「運んだもの」に当たるため、同じ位置で働く語だと分かる。

ここで、and の後ろにある flashlights into the shelter を丸ごと 2 つ目の名詞のまとまりと捉えると、範囲を誤る。into the shelter は「避難所の中へ」という移動の方向を示し、flashlights だけを説明する部分ではない。毛布も懐中電灯も避難所へ運ばれたのであり、移動先は両方に共通している。

では、並列される語句にそれぞれ修飾語が付いた場合はどうだろうか。

語注：entrance「入口」／visitor「来場者」／printed「印刷された」／audio tour「音声ガイド」

(At 〈the entrance〉), visitors can choose 〈the printed guide 〔in English〕〉 or 〈the audio tour 〔in Japanese〕〉.
M　S　V　O　接続詞 or　O

M “At the entrance” / 共通 M・場所 / At the entrance は選ぶ場所を表し、二つの選択肢に共通する。
S “visitors” / 共通主語 / visitors が選択する主体である。
V “can choose” / 共通述語 / can choose は選択可能であることを表す。実際に選び終えたことは示さない。
O “the printed guide in English” / 並列 O①・名詞句 / the printed guide in English が第一の選択肢。printed と in English は guide を説明する。
phrase “or” / 接続詞 or / or は二つの名詞句を選択肢として結ぶ。or 自体は句ではなく接続詞であり、必ず一方だけという制限は示さない。
O “the audio tour in Japanese” / 並列 O②・名詞句 / the audio tour in Japanese が第二の選択肢。audio と in Japanese は tour を説明する。二つの O 表示は一つの並列目的語の内部単位を示す。

意味：入口で、来場者は英語版の印刷ガイドか日本語の音声ガイドを選べる。

この文では、can choose「選べる」の目的語として、the printed guide in English と the audio tour in Japanese という 2 つの名詞句が or で結ばれている。前者では printed と in English が guide を説明し、後者では audio と in Japanese が tour を説明している。

or の直前にある English と、直後の the audio tour だけを結んではいけない。English は in English という修飾表現の一部であり、choose の目的語そのものではないからだ。前半は guide を中心とするまとまり、後半は tour を中心とするまとまりとして、それぞれの修飾語まで含めて読む必要がある。

さらに、At the entrance はガイドのどちらか一方を限定しているのではなく、「入口で選べる」という状況を示している。このように、並列される部分の外側にある共通の情報と、それぞれの内部にある修飾語を区別すると、意味を正確に組み立てられる。

and は追加、but は対比、or は選択を表すのが基本である。接続詞によって意味は変わっても、まず両側の単位を文中の働きから確かめるという読み方は共通する。

並列の範囲は文中の働きから決める

接続詞の左右にある語だけを見るのではなく、それぞれが文の中で同じような働きをするまとまりを探す。修飾語は実際に説明している語句へ結び付け、共通部分は両方との関係を保って読む。原文にない語を補って並列の範囲を作る必要はない。

©ミライコーチング

共通の主語に二つの述部を結び付ける

解説

英文では、主語が一度だけ書かれ、その後に and・but・or で二つの述部が結ばれることがある。述部とは、主語について何を述べるかを表す部分で、動詞を中心に、必要な目的語・補語や修飾語句などを含む。接続詞の前後に動詞が見つかっても、その動詞だけを取り出すのではなく、それぞれの述部全体を捉えることが大切だ。

次の英文を見てみよう。

語注：librarian「図書館員」／returned「返却された」／magazine「雑誌」／entrance「入口」

〈The librarian〉 checked 〈the returned books〉 and placed 〈the new magazines〉
S V O V O

(near 〈the entrance〉).
M

S “The librarian” / 共通主語 / The librarian は checked と placed の両方に対応する主語である。原文に一度だけ書かれている。
V “checked” / 第一の動詞 / checked は過去形の動詞で、返却された本を確認したことを表す。
O “the returned books” / 第一の目的語 / the returned books は checked の目的語である。returned が books を説明する。
V “placed” / 第二の動詞 / placed は過去形の動詞で、共通主語 The librarian に対応する。
O “the new magazines” / 第二の目的語 / the new magazines は placed の目的語である。new が magazines を説明する。
M “near the entrance” / 第二の述部・配置先 / near the entrance は雑誌を置いた場所を示し、第二の述部に結び付く。

〈The librarian〉 checked 〈the returned books〉 and
S 第一の述部

placed 〈the new magazines〉 (near 〈the entrance〉).
第二の述部

S “The librarian” / 両述部に共通する主語 / The librarian は第一・第二の述部に共通する。and の後ろに別の主語は書かれていない。
phrase “checked the returned books” / 第一の述部 / checked the returned books が第一の述部全体であり、checked の目的語は the returned books である。
phrase “placed the new magazines near the entrance” / 第二の述部 / placed the new magazines near the entrance が第二の述部全体であり、目的語と配置先を含む。

意味：図書館員は返却された本を確認し、新しい雑誌を入口の近くに置いた。

まず、and が結ぶ二つの述部を見定める。一つ目は checked the returned books「返却された本を確認した」、二つ目は placed the new magazines near the entrance「新しい雑誌を入口の近くに置いた」である。どちらも動詞と、その動詞に結び付く語句からなるまとまりだ。

次に、この二つの述部の外側にある主語 The librarian を取り出す。checked の主体も placed の主体も The librarian である。原文に主語は一度しか書かれていないが、その一つの主語を両方の述部へ対応させると、文全体の意味がつながる。

ここで、and の直前にある the returned books を、placed の主語として読んではいけない。この名詞句は checked の目的語であり、「確認されたもの」を表している。placed の前に新しい主語が置かれているわけではない。また、最初の目的語 the returned books を二つ目の述部にも引き継ぐと、「本を置いた」という原文とは異なる内容になる。placed には別の目的語 the new magazines がある。

共通するのは主語であり、**一つ目の述部に含まれる目的語や修飾語句まで、必ず共通するわけではない。**

では、主語が動作をする人ではなく、状態を説明されるものだったらどうだろうか。

語注：station「駅」／quiet「静かな」／crowded「混雑した」／by eight o'clock「8 時までに」

〈The station〉 was quiet (in 〈the early morning〉) but became crowded (by 〈eight o'clock〉).
S V C M V C M

S “The station” / 共通主語 / The station は二つの述部に共通する主語である。駅の状態とその変化が述べられており、駅を動作主とみなす必要はない。
V “was” / 第一の動詞 / was は過去形の be 動詞で、補語 quiet と結び付いて駅の状態を表す。
C “quiet” / 第一の補語 / quiet は主語 The station の状態を表す形容詞補語である。
M “in the early morning” / 第一の述部・時間 / in the early morning は駅が静かだった時間を示し、第一の述部に結び付く。
V “became” / 第二の動詞 / became は過去形の動詞で、補語 crowded と結び付いて駅の状態の変化を表す。
C “crowded” / 第二の補語 / crowded は主語 The station が変化した後の状態を表す形容詞補語である。
M “by eight o'clock” / 第二の述部・成立期限 / by eight o'clock は遅くとも 8 時までに混雑した状態になっていたことを示す。変化が起きた正確な時刻を 8 時と指定しない。

〈The station〉 was quiet (in 〈the early morning〉) but became crowded (by 〈eight o'clock〉).
S 第一の述部 第二の述部

S “The station” / 両述部に共通する主語 / The station について二つの状態が述べられる。主語は一度だけ書かれており、but の後ろにも同じ主語が対応する。
phrase “was quiet in the early morning” / 第一の述部 / was quiet in the early morning が第一の述部全体である。駅が早朝には静かだったことを表す。
phrase “became crowded by eight o'clock” / 第二の述部 / became crowded by eight o'clock が第二の述部全体である。遅くとも 8 時までに混雑した状態になっていたことを表し、正確な変化時刻は指定しない。

意味：その駅は早朝には静かだったが、8 時までには混雑するようになった。

この文では、but が was quiet in the early morning「早朝には静かだった」と became crowded by eight o'clock「8 時までには混雑するようになった」という二つの述部を結んでいる。

主語は The station であり、どちらの述部もその駅について述べている。一つ目では was quiet が駅の状態を示し、二つ目では became crowded が駅の状態の変化を示す。駅そのものが何かの動作を行うわけではない。主語を探すときは「誰が動作したか」だけでなく、「何について述べているか」も考える必要がある。

また、in the early morning は一つ目の述部に結び付き、駅が静かだった時間を示す。一方、by eight o'clock は二つ目の述部に結び付き、遅くとも 8 時までには混雑した状態になっていたことを示す。by eight o'clock は変化が成立する期限を表しており、ちょうど 8 時に混雑し始めたと指定しているわけではない。それぞれの述部に付く時間の情報を区別すれば、状態と変化の時点を取り違えずに訳せる。

このような英文では、まず接続詞が結ぶ二つの述部の範囲を確かめる。続いて、実際に書かれた主語を一度取り出し、両方の述部へ戻して意味を組み立てる。これは原文にない主語を書き足す操作ではなく、書かれている主語と二つの述部の関係を読み取る操作である。

©ミライコーチング

一つの主語を二つの述部へ対応させる

接続詞が二つの述部を結ぶときは、それぞれの動詞と結び付く語句の範囲を先に確定する。そのうえで、共通の主語を両方へ対応させる。主語が共通でも、目的語・補語・修飾語句まで無条件に共通とはしない。

それぞれの主語と述語を持つ節を読む

解説

前の説明では、一つの主語に二つの述部が結び付く英文を扱った。しかし、and・but・or は、それぞれに主語と述語がある二つの節を結ぶこともある。本講の基本例では、節を「主語と、時制を持つ述語の組を含むまとまり」と捉える。接続詞の両側にその組があるかを確かめることが、並列の範囲を見抜く手掛かりになる。

次の英文を見てみよう。

語注：mural「壁画」／principal「校長」／praise「ほめる」／assembly「集会」

〈The students〉 painted 〈a large mural〉, and 〈the principal〉 praised 〈their work〉 (at 〈the school assembly〉).
S V O S V O M

S “The students” / 第一の節・主語 / The students は painted の主語であり、大きな壁画を描いた生徒たちを表す。
V “painted” / 第一の節・動詞 / painted は過去形の述語動詞で、a large mural を目的語に取る。
O “a large mural” / 第一の節・目的語 / a large mural は描かれたものを表す名詞句であり、large は mural を説明する。
S “the principal” / 第二の節・主語 / the principal は praised の主語である。前半の The students とは異なる主語が実際に書かれている。
V “praised” / 第二の節・動詞 / praised は過去形の述語動詞で、their work を目的語に取る。
O “their work” / 第二の節・目的語 / their work は校長がほめた対象であり、their は前半の生徒たちを指す。
M “at the school assembly” / 第二の節・場面 / at the school assembly は校長が作品をほめた場面を表し、praised に結び付く。

〈The students〉 painted 〈a large mural〉, and
第一の節

〈the principal〉 praised 〈their work〉 (at 〈the school assembly〉).
第二の節

clause “The students painted a large mural” / 第一の節 / The students painted a large mural は主語 The students と過去形の述語 painted を持つ。生徒たちが壁画を描いた内容である。
clause “the principal praised their work at the school assembly” / 第二の節 / the principal praised their work at the school assembly は主語 the principal と過去形の述語 praised を持つ。and はこの節と第一の節を結ぶ。共通主語はなく、集会の場面は第二の節に属する。

意味：生徒たちは大きな壁画を描き、校長は学校の集会で生徒たちの作品をほめた。

まず、and の前にある The students painted a large mural を読む。主語は The students、述語の中心は painted であり、a large mural が「描いたもの」を表す目的語になっている。これだけで「生徒たちは大きな壁画を描いた」という一つの内容が成立する。

続いて、and の後ろを見る。the principal が主語、praised が述語の中心で、their work が「ほめた対象」を表す。at the school assembly は、校長が作品をほめた場面を示している。こちらも主語と述語を持つ一つの節である。

©ミライコーチング

したがって、and が結ぶのは The students painted a large mural と the principal praised their work at the school assembly という二つの節全体だ。

ここで、and の直前の mural と直後の the principal を並列の名詞として読んではいけない。mural は painted の目的語だが、the principal は praised の主語であり、文中の役割が異なる。接続詞の近くに名詞が並んでいても、それだけで二つの名詞が結ばれているとは限らない。

もう一つ、状態を述べる英文で確かめよう。

語注：main road「大通り」／crowded with cars「車で混雑している」／narrow「狭い」／side street「脇道」／remain「〜のままである」

〈The main road〉 was 〔crowded (with cars)〕, but 〈the narrow side street〉 remained quiet .
S V C S V C

S “The main road” / 第一の節・主語 / The main road は大通りを表し、was crowded with cars でその状態が説明される。
V “was” / 第一の節・動詞 / was は過去形の be 動詞であり、後続の形容詞句と結び付いて大通りの状態を表す。
C “crowded with cars” / 第一の節・補語 / crowded with cars は車で混雑した状態を表す形容詞句である。with cars は crowded の内容を具体化し、主語 The main road の状態を説明する。
S “the narrow side street” / 第二の節・主語 / the narrow side street は狭い脇道を表す。前半の大通りとは異なる主語である。
V “remained” / 第二の節・動詞 / remained は過去形の述語動詞で、後続の補語 quiet と結び付いて状態の継続を表す。
C “quiet” / 第二の節・補語 / quiet は脇道が静かな状態であったことを表す補語である。remained により、その状態が続いていたことが分かる。

〈The main road〉 was 〔crowded (with cars)〕, but
第一の節

〈the narrow side street〉 remained quiet .
第二の節

clause “The main road was crowded with cars” / 第一の節 / The main road was crowded with cars は、主語 The main road と過去形の述語 was を持つ。crowded with cars は大通りが車で混雑していた状態を表す。
clause “the narrow side street remained quiet” / 第二の節 / the narrow side street remained quiet は、主語 the narrow side street と過去形の述語 remained を持つ。but は大通りの混雑と脇道の静かな状態を対比する。二つの節に共通する主語や述語はない。

意味：大通りは車で混雑していたが、狭い脇道は静かなままだった。

but の前では The main road が主語、was crowded with cars がその状態を述べる部分である。後ろでは the narrow side street が別の主語となり、remained quiet がその状態を述べている。二つの節は、大通りと脇道について異なる状態を伝えている。

ここで重要なのは、前の説明との違いだ。共通主語に二つの述部が続く場合は、実際に書かれた一つの主語を両方へ対応させる。一方、この英文には The main road と the narrow side street という主語がそれぞれ書かれている。前半の主語を後半にも当てはめると、脇道について述べた内容を読み落としてしまう。

二つの節を読むときは、まず接続詞の前後で主語と述語の組をそれぞれ取り出し、各節の内容を確定する。その後、接続詞が両方の内容をどう結んでいるかを考える。and を見ただけで時間順や因果関係を補うのではなく、原文に示された関係を保って訳すことが大切だ。

二つの節では主語と述語をそれぞれ確かめる

接続詞の両側に主語と定形の述語がある場合は、それぞれの節を一つのまとまりとして読む。共通主語に二つの述部が続く形と区別し、各節の主語・述語・目的語・補語を正しく対応させる。接続詞の直前と直後の語だけで並列の範囲を決めない。

追加・対比・選択を訳に保つ

解説

並列された二つのまとまりを正しく見つけても、接続詞が表す関係を訳に反映できなければ、英文全体の意味は正確に伝わらない。and は追加、but は対比、or は選択を表すのが基本である。ただし、接続詞の意味だけで内容を決めず、実際に結ばれている語句や節を確認してから訳を組み立てる。

まず、and の例を見てみよう。

語注：community center「地域の交流施設」／offer「提供する」／art class「美術講座」／provide「提供する」

(On weekends) [M], 〈the community center〉 [S] offers [V] 〈free art classes〉 [O] and provides [V]
〈quiet study rooms 〔for 〈local students〉〕〉 [O].

M “On weekends” / 共通 M・時間 / On weekends は二つの述部に共通し、どちらの内容も週末について述べている。
S “the community center” / 共通主語 / the community center は offers と provides の両方に対応する主語である。
V “offers” / 第一の動詞 / offers は現在形で、無料の美術講座を提供していることを表す。
O “free art classes” / 第一の目的語 / free art classes は offers の目的語である。free が art classes を説明している。
V “provides” / 第二の動詞 / provides は現在形で、共通主語 the community center について別の内容を述べる。
O “quiet study rooms for local students” / 第二の目的語 / quiet study rooms for local students を第二の目的語として読む。quiet は study rooms を説明し、for local students はここでは利用対象を示す名詞修飾として扱う。

(On weekends) [M], 〈the community center〉 [S] offers 〈free art classes〉 [第一の述部] and
provides 〈quiet study rooms 〔for 〈local students〉〕〉 [第二の述部].

M “On weekends” / 両述部に共通する時間 / On weekends は第一・第二の述部の外側にある共通の時間情報である。
S “the community center” / 両述部に共通する主語 / the community center が二つの述部に対応する。and の後ろに別の主語は書かれていない。
phrase “offers free art classes” / 第一の述部 / offers free art classes が第一の述部全体である。無料の美術講座を提供する内容を表す。
phrase “provides quiet study rooms for local students” / 第二の述部 / provides quiet study rooms for local students が第二の述部全体である。and は二つの提供内容を追加して結ぶが、時間順や因果関係を指定しない。

意味：週末には、その地域の交流施設は無料の美術講座を開き、地元の生徒向けに静かな学習室を提供している。

and が結ぶのは offers free art classes と provides quiet study rooms for local students という二つの述部である。どちらも主語 the community center について述べており、文頭の On weekends も両方に共通する。

ここで and を「そして」と訳すこと自体は間違いではない。しかし、「美術講座を開いた後で学習室を提供する」と訳すと、原文にない時間順を加えてしまう。and が示しているのは二つの内容の追加であり、それだけで順序や因果関係が決まるわけではない。文脈から順序が読み取れる場合はあるが、接続詞そのものの意味と区別する必要がある。

次に、but の働きを確かめよう。

語注：entrance「入口」／visitor「来訪者」／remain「〜のままである」

Today , 〈the east entrance〉 is 〔open (to visitors)〕, but 〈the west entrance〉 remains closed .
M　S　V　C　S　V　C

M “Today” / 共通 M・時間 / Today は二つの節に共通する時間情報であり、どちらの入口の状態も今日について述べている。
S “the east entrance” / 第一の節・主語 / the east entrance は東側の入口を表し、is open to visitors でその状態が述べられる。
V “is” / 第一の節・動詞 / is は現在形の be 動詞で、後続の補語と結び付いて入口の現在の状態を表す。
C “open to visitors” / 第一の節・補語 / open to visitors は来訪者に開放されている状態を表す形容詞句である。to visitors は open の対象を示す。
S “the west entrance” / 第二の節・主語 / the west entrance は西側の入口を表す。前半の the east entrance とは異なる主語である。
V “remains” / 第二の節・動詞 / remains は現在形の述語動詞で、補語 closed と結び付いて状態の継続を表す。
C “closed” / 第二の節・補語 / closed は西側の入口が閉鎖された状態であることを表す補語である。

Today , 〈the east entrance〉 is 〔open (to visitors)〕, but
M　第一の節

〈the west entrance〉 remains closed .
第二の節

M “Today” / 両節に共通する時間 / Today は二つの節の外側にある時間情報であり、東側と西側の入口の状態の両方に関係する。
clause “the east entrance is open to visitors” / 第一の節 / the east entrance is open to visitors は主語 the east entrance と現在形の述語 is を持つ。東側の入口が来訪者に開放されている状態を表す。
clause “the west entrance remains closed” / 第二の節 / the west entrance remains closed は主語 the west entrance と現在形の述語 remains を持つ。but は二つの入口の状態を対比する。主語や述語は共有されていない。

意味：今日は東側の入口が来訪者に開放されているが、西側の入口は閉鎖されたままである。

but の前は the east entrance is open to visitors、後ろは the west entrance remains closed という二つの節である。文頭の Today は、両方の入口について述べる共通の時間を示している。

前半は東側の入口が利用できる状態、後半は西側の入口が閉鎖されている状態を表す。but によって、この違いが対比されている。単に「西側の入口は開いていない」と否定へ置き換えるのではなく、「東側は開いているが、西側は閉まっている」という対比を保つことが大切だ。また、閉鎖された理由は原文からは分からないため、訳に付け加えない。

最後に、or の例を読もう。

語注：workshop「体験講座」／attend「〜に参加する、出席する」／in person「直接、対面で」／recording「録画」

Students can attend 〈the workshop〉 (in person) or watch 〈its recording〉 online (after 〈the event〉).
S V O M V O M M

S “Students” / 共通主語 / Students は attend と watch の両方に対応する主語である。
V “can attend” / 第一の述語・共通 can を含む / can attend は講座に参加できることを表す。原文に一度だけ書かれた can は、後半の watch にも意味上かかる。
O “the workshop” / 第一の目的語 / the workshop は attend の目的語であり、参加対象の講座を表す。
M “in person” / 第一の述部・参加方法 / in person は講座に直接参加する方法を表し、attend に結び付く。
V “watch” / 第二の動詞 / watch は二つ目の動詞である。前半の can が意味上かかるが、watch の直前に can は書かれていない。
O “its recording” / 第二の目的語 / its recording は watch の目的語である。its は前半の the workshop を指し、その講座の録画を表す。
M “online” / 第二の述部・視聴方法 / online は録画を視聴する方法を示し、watch に結び付く。
M “after the event” / 第二の述部・時間 / after the event は録画を見る時期を示し、watch に結び付く。講座への対面参加の時期を示す修飾語ではない。

Students can attend 〈the workshop〉 (in person) or watch 〈its recording〉 online (after 〈the event〉).
S V 第一の述部・共通 can を除く範囲 第二の述部・共通 can を除く範囲

S “Students” / 両述部に共通する主語 / Students は二つの選択肢に共通する主語であり、原文に一度だけ書かれている。
V “can” / 両述部に共通する助動詞 / can は attend と watch の両方にかかり、二つの方法が利用可能であることを示す。実際に参加・視聴したことは表さない。
phrase “attend the workshop in person” / 第一の述部・共通 can を除く範囲 / attend the workshop in person が第一の並列単位であり、講座へ直接参加する内容を表す。
phrase “watch its recording online after the event” / 第二の述部・共通 can を除く範囲 / watch its recording online after the event が第二の並列単位である。or は直接参加とオンライン視聴の二つの方法を選択肢として結び、必ず一方だけという制限や実行済みの事実は示さない。

意味：生徒たちは体験講座に直接参加するか、開催後にその録画をオンラインで見ることができる。

or が結ぶのは attend the workshop in person と watch its recording online after the event という二つの述部である。主語 Students と助動詞 can は両方に共通し、二つの方法が可能であることを示している。

この文は選択肢を示しているが、「必ずどちらか一方だけしか利用できない」とは述べていない。また、can は可能であることを表すため、「生徒たちは直接参加した」と実際に選択を終えた内容へ変えてはいけない。

接続詞を訳すときは、結ばれている二つの単位とその共通部分を確かめ、そのうえで追加・対比・選択の関係を日本語へ反映する。原文が示していない順序・理由・制限・実行済みの事実を足さないことが、正確な和訳につながる。

接続詞の関係を保ち、意味を足さない

and は基本的に内容の追加、but は対比、or は選択肢の提示を表す。共通の主語・助動詞・時間などがあれば、両方との関係を保って訳す。接続詞だけを根拠に、時間順・因果関係・排他的な選択・実際の行動を断定しない。

例題 1

1

次の英文を読み、設問に答えよ。

語注：class trip「校外学習」／historic「歴史のある」／beside「〜のそばに」

During the class trip, the students visited a small museum near the station and a historic garden beside the river.

a. 接続詞 and が結ぶ二つの単位を原文からそれぞれ抜き出し、両方に共通する部分と対応させて示せ。

b. 英文全体を、構造と意味の関係を保って自然な日本語に訳せ。

例題 1 の解答・解説

a の解答

本解説では、and が二つの訪問先を表す次の名詞句を結ぶ読みを採用する。

- 一つ目：a small museum near the station
- 二つ目：a historic garden beside the river

両方に共通するのは、主語 the students と動詞 visited である。また、文頭の During the class trip は、二つの場所を訪れたこと全体の時間を示している。

(During 〈the class trip〉) [M], 〈the students〉 [S] visited [V]

〈a small museum 〔near 〈the station〉〕〉 [O] and

〈a historic garden 〔beside 〈the river〉〕〉 [O].

M “During the class trip” / 共通 M・時間 / During the class trip は校外学習中という時間を示す。採用主解析では二つの訪問先に共通する。
S “the students” / 共通主語 / the students は visited の主語であり、採用主解析では二つの訪問先に共通する。
V “visited” / 共通動詞 / visited は過去形の動詞である。採用主解析では二つの名詞句を並列した目的語が続く。
O “a small museum near the station” / 第一の並列目的語・名詞句 / 採用主解析では a small museum near the station が第一の訪問先である。small と near the station は museum を説明する。
O “a historic garden beside the river” / 第二の並列目的語・名詞句 / 採用主解析では a historic garden beside the river が第二の訪問先である。historic と beside the river は garden を説明する。二つの O 表示は一つの並列目的語の内部単位であり、SVOO を意味しない。

b の解答

直訳 校外学習の間、生徒たちは駅の近くの小さな博物館と、川のそばの歴史のある庭園を訪れた。

満点の訳 校外学習中、生徒たちは駅の近くにある小さな博物館と、川沿いの歴史ある庭園を訪れた。

解説

まず、文の中心を確認する。主語は the students、動詞は visited であり、「生徒たちは訪れた」という骨格が成立している。visited の後ろには、訪れた場所を表す目的語が続く。

一つ目の目的語は a small museum near the station である。中心となる名詞は museum で、small がその特徴を、near the station がその場所を説明している。したがって、near the station までを含めて「駅の近くにある小さな博物館」という一つの名詞句として読む。

and の後ろでは、a historic garden beside the river が二つ目の目的語となる。中心となる名詞 garden に historic と beside the river が結び付き、「川のそばにある歴史ある庭園」を表している。

本解説で採用する読みでは、and が結ぶのは a small museum near the station と a historic garden beside the river という二つの名詞句である。and の直前にある station は near the station という修飾表現の一部であり、この読みでは単独で visited の目的語になっているわけではない。一方、a historic garden beside the river は、visited の二つ目の目的語となる名詞句である。

この読みでは、**visited が何を目的語として取っているか**を手掛かりに、二つの名詞句全体を対応させる。near the station は museum を、beside the river は garden をそれぞれ説明する。主語 the students と動詞 visited は両方の訪問先に共通しており、生徒たちは駅の近くの小さな博物館と、川のそばの歴史ある庭園という二か所を訪れたことになる。

ただし、原文には別の構造分析も成立する。near の後ろで the station と a historic garden beside the river が and によって結ばれていると読むことも文法的に可能である。この別解析では、and が結ぶ二つの単位は the station と a historic garden beside the river であり、両方に共通する前置詞は near である。visited の目的語は a small museum を中心とする一つの名詞句となり、near が駅と庭園の両方に近いという博物館の位置を説明する。

この別解析での全文訳は「校外学習中、生徒たちは、駅にも、川のそばにある歴史ある庭園にも近い小さな博物館を訪れた。」となる。訪問先は博物館一か所であり、駅と庭園はその博物館の位置を説明する対象である。

したがって、接続詞の直前直後だけで並列範囲を決めることはできない。本解説では二つの訪問先を並列する読みを採用し、前掲の a の解答と二つの訳もその構造に対応させている。ただし、原文だけでは near の後ろで二つの名詞句を並列する別解析を排除できないため、構造と全文の意味が一貫している別の読みまで誤りとはしない。

一方、During the class trip と the students visited は、二つの訪問先に共通する情報である。訳す際には、これらを両方に結び付ければよい。原文に書かれていない訪問の順序や、どちらかを訪れた理由まで補う必要はない。

直訳では、二つの名詞句の修飾関係をそのまま日本語に移した。満点の訳では「校外学習中」「川沿い」などの自然な表現に整えているが、訪れた主体・二つの訪問先・それぞれの場所を説明する情報は変えていない。

©ミライコーチング

例題 2

2

次の英文を読み、設問に答えよ。

語注：designer「デザイナー」／suggest「提案する」／prefer「〜のほうを好む」／black-and-white「白黒の」

During the meeting, the designer suggested a colorful poster, but the manager preferred a black-and-white poster.

a. 接続詞 but が結ぶ二つの単位を原文からそれぞれ抜き出し、両方に共通する部分と対応させて示せ。

b. 英文全体を、構造と意味の関係を保って自然な日本語に訳せ。

例題 2 の解答・解説

a の解答

but が結ぶ二つの単位は、次の節である。

- 一つ目：the designer suggested a colorful poster
- 二つ目：the manager preferred a black-and-white poster

一つ目の節では、主語が the designer、述語の中心が suggested である。二つ目の節では、主語が the manager、述語の中心が preferred である。それぞれに主語と定形の述語があり、but はこの二つの節を結んでいる。

文頭の During the meeting は、二つの節の外側に置かれた共通の時間情報であり、どちらの内容も会議中のことである。一方、主語・述語・目的語はそれぞれの節に書かれており、共通の主語や目的語を補う必要はない。

(During 〈the meeting〉 [M]), 〈the designer〉 [S] suggested [V] 〈a colorful poster〉 [O], but 〈the manager〉 [S] preferred [V] 〈a black-and-white poster〉 [O].

M “During the meeting” / 両節に共通する時間 / During the meeting は会議中という時間を表し、二つの節の内容に共通する。
S “the designer” / 第一の節・主語 / the designer は suggested の主語であり、ポスターを提案した人物を表す。
V “suggested” / 第一の節・動詞 / suggested は過去形の動詞で、a colorful poster を提案したことを表す。採用されたことまでは示さない。
O “a colorful poster” / 第一の節・目的語 / a colorful poster は提案されたものを表す名詞句である。colorful は poster を説明する。
S “the manager” / 第二の節・主語 / the manager は preferred の主語であり、前半の the designer とは異なる。
V “preferred” / 第二の節・動詞 / preferred は過去形の動詞で、白黒のポスターをより好んだことを表す。提案や最終的な採用とは異なる。
O “a black-and-white poster” / 第二の節・目的語 / a black-and-white poster は好まれたものを表す名詞句である。black-and-white は poster を説明する。

(During 〈the meeting〉) , 〈the designer〉 suggested 〈a colorful poster〉, but
M　第一の節

〈the manager〉 preferred 〈a black-and-white poster〉.
第二の節

M “During the meeting” / 両節に共通する時間 / During the meeting は二つの節の外側にある共通の時間情報である。二つの内容が会議中のことであると示す。
clause “the designer suggested a colorful poster” / 第一の節 / the designer suggested a colorful poster は、主語 the designer と過去形の述語 suggested を持つ。色彩豊かなポスターを提案した内容であり、最終的な採用は示さない。
clause “the manager preferred a black-and-white poster” / 第二の節 / the manager preferred a black-and-white poster は、主語 the manager と過去形の述語 preferred を持つ。but は提案と好みの違いを対比する。二つの節に共通する主語や述語はない。

b の解答

直訳 会議の間、デザイナーは色彩豊かなポスターを提案したが、マネージャーは白黒のポスターをより好んだ。

満点の訳 会議では、デザイナーが色鮮やかなポスターを提案した一方、マネージャーは白黒のポスターのほうを好んだ。

解説

まず、but の前にある the designer suggested a colorful poster を一つの節として読む。suggested は過去形の述語動詞で、a colorful poster が「提案したもの」を表す目的語である。これにより、「デザイナーが色彩豊かなポスターを提案した」という内容が成立する。

次に、but の後ろを確認する。the manager が主語、preferred が過去形の述語動詞であり、a black-and-white poster が「好んだもの」を表している。こちらも独立した主語と述語を持つため、前半とは別の節として読むことができる。

ここで、but の直前にある poster と、直後にある the manager を並列された二つの名詞として捉えてはいけない。前者は suggested の目的語の中心となる名詞だが、後者は preferred の主語である。文中の役割が異なるため、この二つを同じ位置にある名詞として結ぶ読みは成り立たない。

また、共通主語に二つの述部が続く形とも区別する必要がある。この英文では、the designer と the manager という異なる主語が実際に書かれている。前半の the designer を後半の preferred にも対応させると、「デザイナーが白黒のポスターを好んだ」という誤った読みになる。

両方に共通する During the meeting は、会議という時間的な場面を示している。しかし、一つ目の目的語 a colorful poster を二つ目の節へ引き継ぐことはできない。後半には別の目的語 a black-and-white poster があるからだ。

意味の面では、but が二人の異なる考えを対比している。前半の suggested は「提案した」、後半の preferred は「より好んだ」であり、二つを同じ行為として訳さない。また、どちらのポスターが最終的に採用されたかは述べられていないため、採用結果を付け加えてはいけない。

直訳では、二つの節の内容を「〜したが」で結んでいる。満点の訳では「一方」を使って対比を明確にし、会議中という共通の時間情報を文頭に自然に配置した。どちらも、二人の主体、過去の内容、異なるポスターへの態度、but の対比関係を保っている。

演習問題

1

次の英文を読み、設問に答えよ。

語注：wool「羊毛の」／cotton「綿の」／wooden「木製の」

At the clothing store, Emma bought a wool coat with large pockets and a cotton jacket with wooden buttons.

a. 接続詞 and が結ぶ二つの単位を原文からそれぞれ抜き出し、両方に共通する部分と対応させて示せ。

b. 英文全体を、構造と意味の関係を保って自然な日本語に訳せ。

2

次の英文を読み、設問に答えよ。

語注：science fair「科学作品展」／model「模型」／solar system「太陽系」／display「展示物」

At the science fair, visitors can start with a model of the solar system or a display about ocean animals.

a. 接続詞 or が結ぶ二つの単位を原文からそれぞれ抜き出し、両方に共通する部分と対応させて示せ。

b. 英文全体を、構造と意味の関係を保って自然な日本語に訳せ。

3

次の英文を読み、設問に答えよ。

語注：community kitchen「地域の共同調理施設」／chef「料理人、シェフ」／food supplies「食材」／volunteer「ボランティア」

At the community kitchen, the chef checked the food supplies and prepared fresh soup for the volunteers.

a. 接続詞 and が結ぶ二つの単位を原文からそれぞれ抜き出し、両方に共通する部分と対応させて示せ。

b. 英文全体を、構造と意味の関係を保って自然な日本語に訳せ。

©ミライコーチング

4

次の英文を読み、設問に答えよ。

語注：from a distance「離れたところから」／major「大規模な」／repair「修理」／rainy season「雨季」

The old bridge looks safe from a distance but needs major repairs before the next rainy season.

a. 接続詞 but が結ぶ二つの単位を原文からそれぞれ抜き出し、両方に共通する部分と対応させて示せ。

b. 英文全体を、構造と意味の関係を保って自然な日本語に訳せ。

5

次の英文を読み、設問に答えよ。

語注：weather forecast「天気予報」／predict「予測する」／tennis match「テニスの試合」／clear skies「晴天」

The weather forecast predicted heavy rain, but the tennis match continued under clear skies that afternoon.

a. 接続詞 but が結ぶ二つの単位を原文からそれぞれ抜き出し、両方に共通する部分と対応させて示せ。

b. 英文全体を、構造と意味の関係を保って自然な日本語に訳せ。

6

次の英文を読み、設問に答えよ。

語注：organizer「主催者」／lecture「講演」／instead「代わりに」

The organizers may move the lecture to a larger room, or students can watch it online instead.

a. 接続詞 or が結ぶ二つの単位を原文からそれぞれ抜き出し、両方に共通する部分と対応させて示せ。

b. 英文全体を、構造と意味の関係を保って自然な日本語に訳せ。

©ミライコーチング

演習問題の解答・解説

演習 1 の解答・解説

1

a の解答

接続詞 and が結ぶ二つの単位は、次の名詞句である。

- 一つ目：a wool coat with large pockets
- 二つ目：a cotton jacket with wooden buttons

両方に共通するのは、主語 Emma と動詞 bought である。二つの名詞句はどちらも bought の目的語となっている。

また、文頭の At the clothing store は、Emma が品物を買った場所を示す。これは並列された二つの名詞句の外側にある共通の情報である。

(At 〈the clothing store〉) [M], Emma [S] bought [V] 〈a wool coat 〔with 〈large pockets〉〕〉 [O]

and 〈a cotton jacket 〔with 〈wooden buttons〉〕〉 [O].

M “At the clothing store” / 共通 M・購入場所 / At the clothing store は購入した場所を示す。採用主解析では二つの購入品に共通する。
S “Emma” / 共通主語 / Emma は bought の主語であり、二つの品物を購入した主体である。
V “bought” / 共通動詞 / bought は過去形の動詞である。二つの名詞句が並列され、一つの動詞の目的語となっている。
O “a wool coat with large pockets” / 第一の並列目的語・名詞句 / a wool coat with large pockets が第一の購入品である。wool は coat の材質を、with large pockets は coat の特徴を説明する。
O “a cotton jacket with wooden buttons” / 第二の並列目的語・名詞句 / a cotton jacket with wooden buttons が第二の購入品である。cotton は jacket の材質を、with wooden buttons は jacket の特徴を説明する。二つの O 表示は並列目的語の内部単位を示し、SVOO を意味しない。

b の解答

直訳 洋服店で、エマは大きなポケットのある羊毛のコートと、木製のボタンが付いた綿のジャケットを買った。

満点の訳 洋服店でエマは、大きなポケット付きのウールのコートと、木製ボタン付きのコットンジャケットを買った。

解説

まず、文の中心となる Emma bought を確認する。Emma が主語、bought が過去形の動詞であり、「エマは買った」という骨格が成立する。その後ろに、買った品物を表す目的語が続いている。

一つ目の名詞句は a wool coat with large pockets である。中心となる名詞 coat に、材質を表す wool と、特徴を説明する with large pockets が結び付いている。したがって、coat だけでなく with large pockets までを含めて一つのまとまりとして捉える。

二つ目の名詞句は a cotton jacket with wooden buttons である。中心となる名詞 jacket に cotton と with wooden buttons が結び付く。「木製のボタンが付いた綿のジャケット」という意味になる。

ここで注意したいのは、and の直前にある pockets と、直後の a cotton jacket だけを並列させないことだ。pockets は with large pockets という修飾表現の一部であり、coat の特徴を説明している。一方、a cotton jacket は、二つ目の購入品を表す名詞句の中心部分である。

また、二つの with を含む修飾表現も区別する必要がある。with large pockets は coat を、with wooden buttons は jacket を説明している。両者を共通の修飾語として扱うと、どちらの衣服にどの特徴があるのかが変わってしまう。

文頭の At the clothing store は、購入という行為全体に結び付く。コートだけを洋服店で買い、ジャケットは別の場所で買ったと限定する根拠はない。

直訳では、それぞれの衣服の材質と特徴を明示した。満点の訳では「ウール」「コットン」「〜付き」という自然な表現へ整えたが、購入した主体、二つの品物、各修飾語の対応、過去の出来事という意味は変えていない。

and が示すのは二つの購入品の追加であり、どちらを先に買ったかという順序や、購入の理由は原文からは分からない。

©ミライコーチング

演習 2 の解答・解説

2

a の解答

この解答では、or が二つの展示対象を表す名詞句を結ぶ読みを採用する。

- 一つ目：a model of the solar system
- 二つ目：a display about ocean animals

両方に共通するのは、主語 visitors と述語 can start with である。二つの名詞句はいずれも with の目的語となり、見学を始める対象を表している。

また、文頭の At the science fair は、見学を始める場所を示しており、二つの選択肢に共通する情報である。

(At 〈the science fair〉) (M), visitors (S) can start (V) (with (M)
〈a model 〔of 〈the solar system〉〕〉 (第一の選択肢・名詞句) or 〈a display 〔about 〈ocean animals〉〕〉 (第二の選択肢・名詞句)).

M “At the science fair” / 共通 M・見学場所 / At the science fair は見学する場所を示し、二つの開始対象に共通する。
S “visitors” / 共通主語 / visitors は can start の主語であり、見学を始めることができる来場者を表す。
V “can start” / 共通述語 / can start は見学を始めることができるという意味である。can は両方の開始対象に共通し、実際に見学を始めたことは示さない。
M “with” / 共通前置詞 with / with は後続する二つの名詞句を共通して導く前置詞である。with 単体が完全な修飾語句なのではなく、後続の並列名詞句を含む前置詞句全体が start に結び付く。
phrase “a model of the solar system” / 第一の選択肢・名詞句 / 採用主解析では a model of the solar system が with の第一の対象である。of the solar system は model の内容を説明する。start の直接目的語ではない。
phrase “a display about ocean animals” / 第二の選択肢・名詞句 / 採用主解析では a display about ocean animals が with の第二の対象である。about ocean animals は display の内容を説明する。or は二つの開始対象を選択肢として結び、必ず一方だけという制限を示さない。of の内側で並列する別解析も文法上は可能である。

b の解答

直訳 科学作品展で、来場者は太陽系の模型か、海の動物についての展示物から見始めることができる。

満点の訳 科学作品展では、来場者は太陽系の模型、または海の生き物を紹介する展示のどちらからでも見学を始められる。

解説

まず、文の中心となる visitors can start を確認する。visitors が主語、can start が助動詞を含む述語であり、「来場者は始めることができる」という意味になる。

その後ろの with は、何から始めるかを示す前置詞である。この英文では、with に続く二つの名詞句が or で結ばれている。

一つ目は a model of the solar system である。中心となる名詞 model に of the solar system が結び付き、何を表す模型なのかを説明している。the solar system だけを独立した選択肢として取り出すのではなく、a model から始まるまとまりを捉える。

二つ目は a display about ocean animals である。中心となる名詞 display に about ocean animals が結び付き、展示が扱う内容を説明している。

©ミライコーチング

ここで、or の直前にある the solar system と、直後にある a display about ocean animals をそのまま並列の二単位として確定するのは適切ではない。採用した読みでは、the solar system は of に続く名詞句であり、a model of the solar system という一つの展示対象の内部に含まれているからだ。

二つの選択肢に共通する with は原文に一度だけ書かれている。二つ目の名詞句の前に存在しない with を原文の一部として書き足す必要はない。どちらの名詞句も、同じ with に続く対象として読む。

また、At the science fair は見学の場面を示し、特定の展示だけを修飾するものではない。これを一つ目の模型だけに結び付けると、二つ目の展示について原文が示していない場所の違いを作ってしまう。

意味の面では、or が二つの開始対象を選択肢として示している。can start は「始めることができる」という可能性を表すため、すでにどちらかを見始めたと訳してはいけない。また、両方を見ることが禁止されているとも書かれていない。

満点の訳では、start with を「〜から見学を始める」と自然に整え、or の選択関係を「どちらからでも」で表した。ただし、この表現は選択可能な開始対象を示すものであり、両方を必ず見学できると保証する意味ではない。

別の構造として成立する読み

文法上は、or が the solar system と a display about ocean animals を結び、a model of を両方に共通させる分析も可能である。

その場合、a の二単位は次のようになる。

- 一つ目：the solar system
- 二つ目：a display about ocean animals

共通部分は、直前の a model of と、その外側にある At the science fair, visitors can start with である。

この読みでの b の全文訳は、「科学作品展で、来場者は太陽系か、海の動物についての展示物を表した模型から見学を始めることができる」となる。

ただし、この読みでは二つ目の対象も「展示物そのものを表した模型」と解釈する必要がある。通常の科学作品展で模型と展示物を選択肢として挙げる文脈では、最初に示した二つの名詞句を並列させる読みのほうが自然である。別の構造を採る場合も、その構造に対応した意味を一貫して保持する必要がある。

演習 3 の解答・解説

3

a の解答

接続詞 and が結ぶ二つの単位は、次の述部である。

- 一つ目：checked the food supplies
- 二つ目：prepared fresh soup for the volunteers

両方に共通する主語は the chef である。この主語が、checked と prepared の両方に対応している。

また、文頭の At the community kitchen は、二つの行為が行われた場所を示す共通の修飾語句である。

一方、the food supplies は checked の目的語、fresh soup は prepared の目的語であり、それぞれ別の述部に属する。for the volunteers は、二つ目の述部で用意されたスープの提供先を示している。

(At 〈the community kitchen〉) [M], 〈the chef〉 [S] checked [V] 〈the food supplies〉 [O] and prepared [V] 〈fresh soup〉 [O] (for 〈the volunteers〉) [M].

M “At the community kitchen” / 共通 M・場所 / At the community kitchen は二つの行為が行われた場所を示す。食材の確認とスープの用意の両方に共通する。
S “the chef” / 共通主語 / the chef は checked と prepared の両方に対応する主語である。and の後ろに別の主語は書かれていない。
V “checked” / 第一の動詞 / checked は過去形の動詞であり、食材を確認したことを表す。
O “the food supplies” / 第一の目的語 / the food supplies は checked の目的語であり、確認された食材を表す。第二の述部の目的語ではない。
V “prepared” / 第二の動詞 / prepared は過去形の動詞であり、共通主語 the chef がスープを用意したことを表す。and 自体は二つの行為の因果関係や厳密な時間順を指定しない。
O “fresh soup” / 第二の目的語 / fresh soup は prepared の目的語である。fresh はスープの新鮮さを表し、必ず調理直後の作りたてであるとは指定しない。
M “for the volunteers” / 第二の述部・提供先 / for the volunteers はスープを誰のために用意したかを示し、prepared に結び付く。食材の確認についても同じ目的が明示されているわけではない。

(At 〈the community kitchen〉) [M], 〈the chef〉 [S] checked 〈the food supplies〉 [第一の述部] and prepared 〈fresh soup〉 (for 〈the volunteers〉) [第二の述部].

M “At the community kitchen” / 両述部に共通する場所 / At the community kitchen は二つの述部の外側にある共通の場所情報である。
S “the chef” / 両述部に共通する主語 / the chef が第一・第二の述部の両方に対応する。原文に一度だけ書かれている主語である。
phrase “checked the food supplies” / 第一の述部 / checked the food supplies が第一の述部全体である。checked の対象は the food supplies であり、食材を確認した内容を表す。
phrase “prepared fresh soup for the volunteers” / 第二の述部 / prepared fresh soup for the volunteers が第二の述部全体である。fresh soup は用意されたもの、for the volunteers はその提供先を示す。fresh は必ず作りたてという意味ではない。and は二つの述部を追加して結び、因果関係や厳密な時間順をそれ自体では指定しない。

b の解答 直訳 地域の共同調理施設で、料理人は食材を確認し、ボランティアのために新鮮なスープを用意した。

満点の訳 地域の共同調理施設で、料理人は食材を確認するとともに、ボランティア向けに新鮮なスープを用意した。

解説

まず、文の中心となる主語と述語を確認する。主語は the chef であり、その後ろに checked と prepared という二つの過去形の動詞がある。and はこれらの動詞を中心とする二つの述部を結んでいる。

一つ目の述部は checked the food supplies である。checked は「確認した」、the food supplies はその対象となる目的語である。「料理人が食材を確認した」という内容が成立する。

二つ目の述部は prepared fresh soup for the volunteers である。prepared は「用意した」、fresh soup は用意したものを表す目的語である。for the volunteers は、誰のためにスープを用意したのかを説明している。

ここで、and の直前にある the food supplies を、二つ目の述部の主語と誤認してはいけない。the food supplies は checked の目的語であり、prepared の主体ではない。二つ目の述部にも、最初に書かれた the chef が対応している。

また、並列されている範囲を checked と prepared という動詞だけに限定すると、それぞれの目的語や修飾語句との関係を見失いやすい。checked には the food supplies、prepared には fresh soup for the volunteers が続くため、これらを含めて二つの述部を捉える必要がある。

文頭の At the community kitchen は、the chef が行った二つの行為に共通する場所の情報である。一方、for the volunteers はスープを用意した目的・提供先を示すものであり、食材の確認についても同じ目的が明示されているわけではない。

意味の面では、and が二つの行為を追加・並列している。ただし、and そのものが「食材を確認したからスープを用意した」という因果関係を表すわけではない。また、二つの動詞の順序だけを根拠に、必ず一つ目の行為が完了してから二つ目が始まったと断定する必要もない。

fresh soup の fresh は、スープの新鮮さを表す。文脈によっては「作りたてのスープ」と訳すことも考えられるが、この英文だけから調理直後であることまで必然的に決まるわけではない。ここでは「新鮮なスープ」と訳し、原文にない具体的な調理時点を加えていない。

直訳では、原文の語句の対応を明確にした。満点の訳では「〜するとともに」を用いて二つの行為の並列関係を自然に表している。いずれも、共通の主体と場所、それぞれの目的語、スープの提供先、過去の出来事という意味を保持している。

©ミライコーチング

演習 4 の解答・解説

4

a の解答

接続詞 but が結ぶ二つの単位は、次の述部である。

- 一つ目：looks safe from a distance
- 二つ目：needs major repairs before the next rainy season

両方に共通する主語は The old bridge である。この主語について、looks safe from a distance と needs major repairs before the next rainy season という二つの内容が述べられている。

一つ目の述部では、from a distance が「どこから見ると安全そうなのか」を示している。

二つ目の述部では、major repairs が必要な修理の内容を、before the next rainy season がその修理を必要とする時期を示している。

〈The old bridge〉 looks safe (from 〈a distance〉) but needs 〈major repairs〉
S V C M V O
(before 〈the next rainy season〉).
M

S “The old bridge” / 共通主語 / The old bridge は二つの述部に共通する主語である。橋は動作主ではなく、見た目と修理の必要性を述べられる対象である。
V “looks” / 第一の動詞 / looks は見た目を表す現在形の動詞であり、実際の安全性を保証しない。
C “safe” / 第一の補語 / safe は主語の見た目について述べる形容詞補語である。looks safe で安全そうに見えることを表す。
M “from a distance” / 第一の述部・観察位置 / from a distance は離れたところから見た場合という条件を示し、looks safe に結び付く。
V “needs” / 第二の動詞 / needs は現在形の動詞であり、橋が修理を必要としている状態を表す。修理が実施済みであるとは示さない。
O “major repairs” / 第二の目的語 / major repairs は needs の目的語であり、必要とされる大規模な修理を表す。
M “before the next rainy season” / 第二の述部・修理の期限 / before the next rainy season は次の雨季より前という期限を示す。修理がすでに行われたことは意味しない。

〈The old bridge〉 looks safe (from 〈a distance〉) but
S 第一の述部
needs 〈major repairs〉 (before 〈the next rainy season〉).
第二の述部

S “The old bridge” / 両述部に共通する主語 / The old bridge について二つの内容が述べられる。主語は原文に一度だけ書かれており、but の後ろにも対応する。
phrase “looks safe from a distance” / 第一の述部 / looks safe from a distance が第一の並列単位である。橋が遠くからは安全そうに見えることを述べ、実際の安全性を断定しない。
phrase “needs major repairs before the next rainy season” / 第二の述部 / needs major repairs before the next rainy season が第二の並列単位である。but は見た目と修理の必要性を対比する。修理は次の雨季より前に必要であり、実施済みとは述べていない。

b の解答

直訳 その古い橋は、離れたところからは安全そうに見えるが、次の雨季の前に大規模な修理を必要としている。

満点の訳 その古い橋は、遠くから見ると安全そうだが、次の雨季が来る前に大がかりな修理が必要だ。

解説 まず、主語となる The old bridge を確認する。その後ろには looks と needs という二つの現在形の動詞があり、but によって二つの述部が結ばれている。

一つ目の述部は looks safe from a distance である。looks はここでは「〜に見える」という意味で使われ、safe は橋がどのように見えるかを表す補語である。from a distance は、その見え方が成立する観察位置を示している。

ここで、looks safe を単に「安全である」と訳してはいけない。looks は見た目や印象を表しており、実際に橋の安全性が確認されていることを意味しない。したがって、「安全そうに見える」と訳して、外見と実際の状態を区別する必要がある。

二つ目の述部は needs major repairs before the next rainy season である。needs は「必要としている」という現在の状態を表し、major repairs は必要な大規模な修理を示している。

また、before the next rainy season は「次の雨季の前に」という時期の情報である。ここでは、次の雨季を迎える前に修理する必要があるという意味になる。実際に修理が行われたことや、修理が完了したことまでは述べられていない。

接続詞 but の直前にある distance を、後ろの needs と特別に結び付ける読みは適切ではない。distance は from a distance という前置詞句の一部であり、一つ目の looks safe を説明している。but の後ろの needs は、共通主語 The old bridge について新たな内容を述べる動詞である。

この文では、主語 The old bridge は動作を行う人物ではない。前半では橋の見た目、後半では橋が修理を必要とする状態を述べている。主語を必ず「何かの動作をするもの」と考えるのではなく、何について二つの内容が述べられているかを確認することが大切だ。

意味の面では、but が「遠くからは安全そうに見える」という外見と、「大がかりな修理が必要である」という状態を対比している。but を単なる否定として処理すると、この対比を十分に表せない。

また、from a distance は一つ目の述部に、before the next rainy season は二つ目の述部に結び付く。それぞれの修飾範囲を取り違えずに訳すことで、どの情報が何を説明しているかが明確になる。

直訳では、needs を「修理を必要としている」と表した。満点の訳では「大がかりな修理が必要だ」という自然な日本語へ整えている。どちらも、橋の見た目についての判断、現在の修理の必要性、次の雨季より前という時間条件、but による対比を保持している。

演習 5 の解答・解説

5

a の解答

接続詞 but が結ぶ二つの単位は、次の節である。

- 一つ目：The weather forecast predicted heavy rain
- 二つ目：the tennis match continued under clear skies that afternoon

一つ目の節では、主語が The weather forecast、述語の中心が predicted である。二つ目の節では、主語が the tennis match、述語の中心が continued である。

二つの節には、それぞれ異なる主語と過去形の述語動詞が書かれている。共通の主語や述語はなく、一方の節の語句をもう一方へ補う必要はない。

また、under clear skies と that afternoon は、二つ目の節の continued に結び付く。この解答では、that afternoon を試合が続いた時間として読む。天気予報が発表された時刻まで、その午後であったと確定するものではない。

〈The weather forecast〉 predicted 〈heavy rain〉, but 〈the tennis match〉 continued
S V O S V

(under 〈clear skies〉) (that afternoon).
M M

S “The weather forecast” / 第一の節・主語 / The weather forecast は天気予報を表し、predicted の主語である。
V “predicted” / 第一の節・動詞 / predicted は過去形の動詞であり、大雨を予測したことを表す。予測された雨が実際に降ったとは示さない。
O “heavy rain” / 第一の節・目的語 / heavy rain は predicted の目的語であり、予測された大雨を表す。実際の降雨と区別する。
S “the tennis match” / 第二の節・主語 / the tennis match は continued の主語である。前半の The weather forecast とは異なる。
V “continued” / 第二の節・動詞 / continued は過去形の動詞であり、テニスの試合が続いたことを表す。
M “under clear skies” / 第二の節・天候 / under clear skies は晴れた空の下で試合が続いたことを示し、continued に結び付く。
M “that afternoon” / 第二の節・時間 / 採用主解析では that afternoon は continued の時間を示す。予報が発表された時刻までその午後だったとは断定しない。

〈The weather forecast〉 predicted 〈heavy rain〉, but
第一の節

〈the tennis match〉 continued (under 〈clear skies〉) (that afternoon).
第二の節

clause “The weather forecast predicted heavy rain” / 第一の節 / The weather forecast predicted heavy rain が第一の並列単位である。主語 The weather forecast と過去形の述語 predicted を持ち、大雨の予測を表す。
clause “the tennis match continued under clear skies that afternoon” / 第二の節 / the tennis match continued under clear skies that afternoon が第二の並列単位である。主語 the tennis match と過去形の述語 continued を持つ。but は大雨の予測と晴天中の試合継続を対比する。主語や述語の共有はなく、that afternoon はここでは第二の節の時間である。

b の解答

直訳 天気予報は大雨を予測したが、その午後、テニスの試合は晴れた空の下で続いた。

満点の訳 天気予報では大雨が予想されていたが、その午後、テニスの試合は晴天の下で続いた。

解説

まず、but の前にある The weather forecast predicted heavy rain を一つの節として読む。

主語は The weather forecast、述語動詞は predicted である。predicted は「予測した」という過去形で、heavy rain は予測された内容を表す目的語である。

ここで注意したいのは、heavy rain が実際に降った雨を表すわけではないことだ。predicted は予測という行為を示しており、「大雨が降った」と訳すと、予測された内容を実際の出来事へ変えてしまう。

次に、but の後ろにある the tennis match continued under clear skies that afternoon を確認する。

こちらの主語は the tennis match、述語動詞は continued である。continued は「続いた」という過去形であり、テニスの試合が継続したことを表している。

under clear skies は、試合が続いたときの天候を示す修飾語句である。clear skies は「晴れた空」を表すため、試合が続いていたときの天候は晴れだったと読み取れる。

また、that afternoon は「その午後」を表し、ここでは continued に結び付く時間の情報として読む。

接続詞 but の直前にある rain と、直後の the tennis match を並列された二つの名詞として捉えてはいけない。rain は predicted の目的語の中心となる名詞であり、the tennis match は continued の主語である。

両者は文中の役割が異なる。but が結ぶのは、単なる二つの名詞ではなく、それぞれ主語と述語を持つ二つの節全体である。

さらに、二つの節を共通主語の形として読まないことも重要だ。前半では天気予報について、後半ではテニスの試合について述べている。The weather forecast を continued の主語として扱うと、「天気予報が続いた」という原文とは異なる意味になってしまう。

意味の面では、but が「大雨が予測されていたこと」と「晴天の下で試合が続いたこと」を対比している。

この対比を正確に訳すには、予測された大雨と、試合が続いたときの実際の天候を区別する必要がある。天気予報が外れたと考えることは自然だが、予報の精度や雨が降らなかった理由などを原文にない情報として付け加える必要はない。

また、but 自体が「予測に反して試合が行われた原因」を説明しているわけではない。二つの内容の対比を示しているのであり、試合が継続できた理由までは述べていない。

直訳では、predicted を「予測した」、continued を「続いた」として、二つの過去の内容を対応させた。

満点の訳では、The weather forecast predicted heavy rain を「天気予報では大雨が予想されていた」と自然に整えている。主語の表現は変わっているが、予測と実際の天候の区別、試合の継続、過去時制、that afternoon の修飾範囲、but による対比は保持している。

演習 6 の解答・解説

6

a の解答

接続詞 or が結ぶ二つの単位は、次の節である。

- 一つ目：The organizers may move the lecture to a larger room
- 二つ目：students can watch it online instead

一つ目の節では、主語が The organizers、述語が may move である。二つ目の節では、主語が students、述語が can watch である。

それぞれの節に異なる主語と助動詞を含む述語が書かれている。共通する主語や助動詞はないため、前半の The organizers や may を後半へ引き継いではいけない。

ただし、二つの節は内容上、同じ講演に関係している。一つ目の節では the lecture が移動の対象であり、二つ目の節では it がその講演を指している。

この the lecture と it の関係は、同じ対象を指すという意味上の対応である。二つの節に共通する語句が原文に一度だけ書かれているわけではない。

〈The organizers〉 may move 〈the lecture〉 (to 〈a larger room〉), or students can watch it online instead.
S V O M S V O M M

S “The organizers” / 第一の節・主語 / The organizers は may move の主語であり、講演の会場を変更する可能性がある主催者を表す。
V “may move” / 第一の節・述語 / may move はここでは会場を移す可能性を表す。許可の意味が成立する文脈では、移してもよいという別読も可能である。
O “the lecture” / 第一の節・目的語 / the lecture は move の目的語であり、移動の対象となる講演を表す。実際に移動されたとは示さない。
M “to a larger room” / 第一の節・移動先 / to a larger room は講演を移す先を示す。部屋の変更が実施済みであるとは示さない。
S “students” / 第二の節・主語 / students は can watch の主語である。前半の The organizers とは異なる主体である。
V “can watch” / 第二の節・述語 / can watch はオンライン視聴が可能であることを表す。実際に視聴したことは示さない。前半の may とは異なる助動詞である。
O “it” / 第二の節・目的語 / it は前半の the lecture を指す代名詞である。同じ講演を指す照応であり、二つの節に共通する原文上の一つの span ではない。
M “online” / 第二の節・視聴方法 / online は講演の視聴方法がオンラインであることを示す。視聴が実行済みであるとは示さない。
M “instead” / 第二の節・代替 / instead は代わりにという意味で、オンライン視聴を代替的な選択肢として示す。or とともに働くが、二つの可能性が必ず排他的であるとは断定しない。

〈The organizers〉 may move 〈the lecture〉 (to 〈a larger room〉), or students can watch it online instead.
第一の節　第二の節

clause “The organizers may move the lecture to a larger room” / 第一の節 / The organizers may move the lecture to a larger room が第一の並列単位である。主語 The organizers と述語 may move を持ち、主解析では会場変更の可能性を示す。許可を表す別読も文脈次第で成立する。
clause “students can watch it online instead” / 第二の節 / students can watch it online instead が第二の並列単位である。主語 students と述語 can watch を持つ。or と instead は代替的な選択肢を示すが、排他的な制限や実行済みの事実は示さない。二つの節に共通する主語や助動詞はなく、it は前半の the lecture を指す照応である。

b の解答

直訳 主催者たちは講演をもっと広い部屋に移すかもしれない。あるいは、学生たちは代わりにそれをオンラインで見ることができる。

満点の訳 主催者が講演をより広い部屋に移す可能性もある。あるいは、学生たちは代わりにその講演をオンラインで視聴することもできる。

解説

まず、or の前にある The organizers may move the lecture to a larger room を確認する。

主語は The organizers、述語は may move である。may はここでは「〜するかもしれない」という可能性を表し、move は「移す」という意味で使われている。

the lecture は移動の対象となる目的語であり、to a larger room は移動先を示している。

したがって、この節は「主催者が講演をもっと広い部屋に移すかもしれない」という内容になる。

ここで、may move を「移した」と訳してはいけない。may が示すのは可能性であり、実際に講演の会場が変更されたことまでは分からない。

なお、may は文脈によって許可を表すこともある。主催者に会場変更の許可が与えられている場面なら、「主催者は講演をもっと広い部屋に移してもよい」という読みも成立する。ただし、この英文では許可を与える人物や規則が示されていないため、ここでは可能性の読みを採用する。

続いて、or の後ろにある students can watch it online instead を読む。

こちらの主語は students、述語は can watch である。can はこの文では「〜することができる」という可能・利用可能性を表す。

it は watch の目的語であり、前半の the lecture を指している。online は視聴する方法を示し、instead は「代わりに」という意味で、オンライン視聴が別の選択肢になることを表している。

したがって、「学生たちは代わりにその講演をオンラインで見ることができる」という内容になる。

ここで、or の直前にある room と直後の students だけを並列の単位として捉えてはいけない。

room は to a larger room という移動先を表す前置詞句の一部であり、students は後半の節の主語である。文中の働きが異なるため、この二つを対等な名詞として結ぶ読みは成り立たない。

また、前半の主語 The organizers を後半にも適用すると、「主催者がオンラインで視聴できる」という別の意味になってしまう。後半には students という主語が実際に書かれているため、それぞれの節の主体を区別しなければならない。

助動詞の違いも重要である。前半では may が会場変更の可能性を、後半では can がオンライン視聴の利用可能性を示している。二つの助動詞を同じ意味にそろえたり、一方の助動詞をもう一方の節に適用したりしてはいけない。

さらに、the lecture と it は同じ講演を指しているが、原文に同じ名詞句が二度書かれているわけではない。it の指示対象を確認して日本語では「その講演」と表すことができるものの、構造上の共有語句と指示語の対応は区別する必要がある。

意味の面では、or が二つの内容を代替的な選択肢として結んでいる。

一つ目は、主催者が講演をより広い部屋に移す可能性である。二つ目は、学生が代わりにオンラインで講演を視聴できるという選択肢である。

instead によって後半の代替性が明確になっているが、or があるからといって、必ず二つのうち一方しか成立しないとまでは断定できない。会場変更とオンライン視聴の両方が認められる可能性も、原文だけでは排除されていない。

また、may と can はどちらも、この文では実行済みの事実を述べていない。すでに会場が変更された、あるいは学生がオンラインで視聴したという内容を訳に加えてはいけない。

直訳では、may を「〜かもしれない」、can を「〜することができる」と表し、それぞれの助動詞の意味を明確にした。

満点の訳では、may move を「移す可能性もある」、can watch it online を「その講演をオンラインで視聴することもできる」と自然な日本語に整えている。いずれも、二つの節の異なる主体、講演と it の対応、可能性と利用可能性の違い、or と instead による代替関係を保持している。

©ミライコーチング